

TOTO

ロータンク金具

商品の機能が十分に発揮されるように、この施工説明書の内容にそって正しく取り付けてください。取り付け後は、お客様にご使用方法を十分にご説明ください。

1 安全上の注意 (安全のために必ずお守りください)

取り付け前に、この「安全上の注意」をよくお読みのうえ、正しく取り付けてください。

- この説明書では商品を安全に正しく取り付けいただき、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな表示をしています。
その表示と意味は次のようになっています。
- お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。

表 示	意 味
 注意	この表示の欄の内容を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

	は、してはいけない「禁止」内容です。 左図は、「分解禁止」を示します。
	は、必ず実行していただく「強制」内容です。 左図は、「必ず実行」を示します。

 注 意	
	強い力や衝撃を与えない 陶器が破損してけがをしたり、水漏れにより家財などをめらす財産損害発生のおそれがあります。
	修理技術者以外の人、金具本体内部を分解しない 故障や水漏れの原因になります。
	必ず実行 フィルターの掃除をする際は、いきなりフィルターをゆるめずに、止水栓を閉めてから行う 水が噴き出して、家財などをめらす財産損害発生のおそれがあります。 設置工事に使用する部品は必ず付属部品および指定部品を使用する 故障や水漏れの原因になります。

2 仕様

給水圧力	最低必要水圧	0.05MPa(流動時)
	最高水圧	0.75MPa(静止時)
使用最高温度		40℃以下
使用可能水質		水道水および飲用可能な井戸水
使用環境温度	一般地用	1～40℃
	寒冷地用	－20～40℃ (ただし、0℃以下は水を抜いた状態)
用 途		一般住宅トイレ用

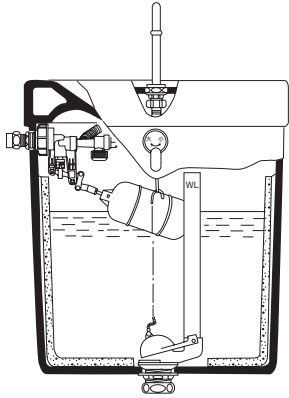
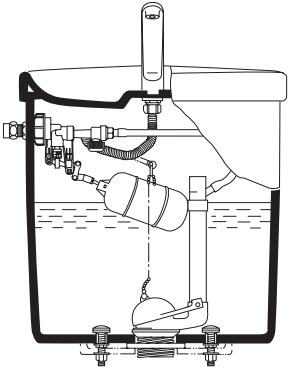
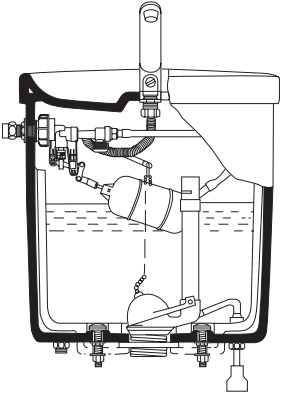
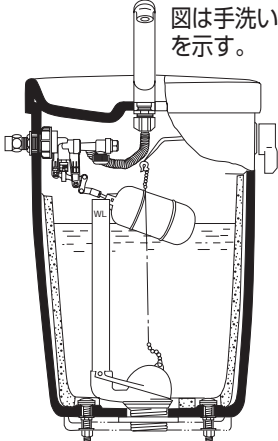
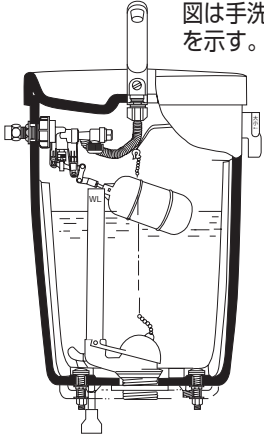
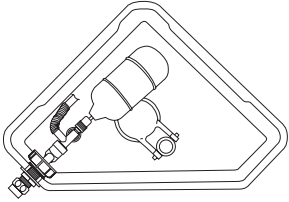
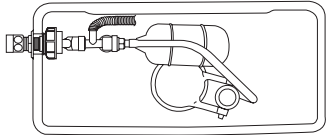
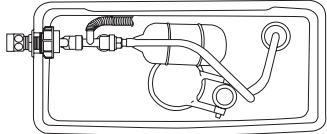
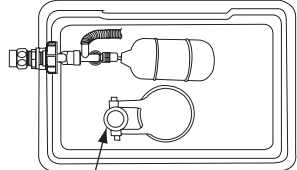
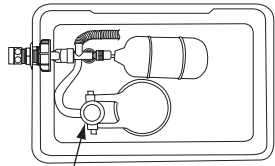
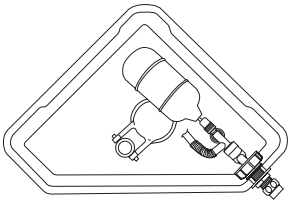
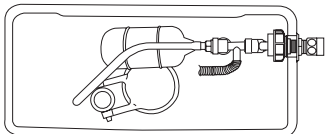
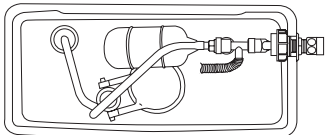
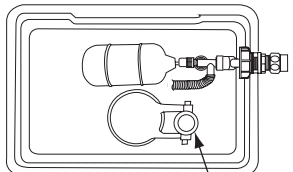
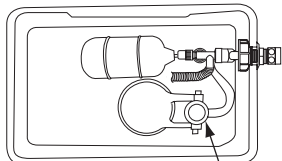
3 取り付け前に

給水圧力が0.75MPaを超える場合は、市販の減圧弁で0.2MPa程度に減圧してください。快適にお使いいただくためには、0.2MPa程度の圧力をおすすめします。

4

完成図

※品番によっては、図と現品の形状が一部異なることがあります。

タンクの品番		防露付き S670B	手洗い付き S721・S721B S721BN	手洗い付き S721BF	手洗い付き S731B	手洗い付き S731BF
取付完了図		防露なし S670	手洗なし S710・S710B S710BN	手洗なし S710BF	手洗なし S730B	防露なし S730BF
		図は防露付きを示す。 	図は手洗い付きを示す。 	図は手洗い付きを示す。 	図は手洗い付きを示す。 	図は手洗い付きを示す。 
ボールタップと排水弁の取り付け	左給水				 排水弁 左側	 排水弁 左側
	右給水				 排水弁 右側	 排水弁 右側

太枠は排水弁の取り付け方向が他の場合と異なりますのでご注意ください。

5-1

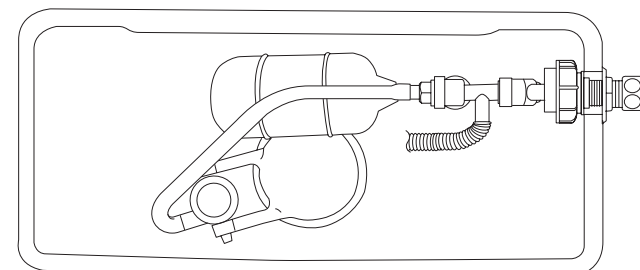
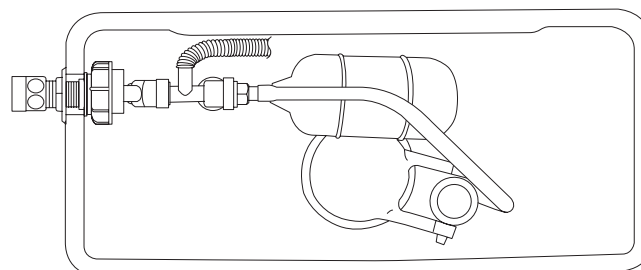
施工手順

※品番によっては、図と現品の形状が一部異なることがあります。

左給水の場合

右給水の場合

1 給水管内の掃除



6 ボールタップの取り付け

15 手洗金具の接続（手洗い付きの場合）

16 手洗金具の吐水量調節（流動・水抜きの場合）

10 タンクふたの取り付け
（ふた固定タイプの場合のみ）

11 ボールタップと止水栓の接続
（一般・流動方式の場合）

12 ボールタップと止水栓の接続
（水抜き方式の場合）

7 補助水管の接続
（補助水管のある場合のみ）

17 取り付け完了後の確認

13 止水位の調節

4 鎖の取り付け

14 止水栓の調節

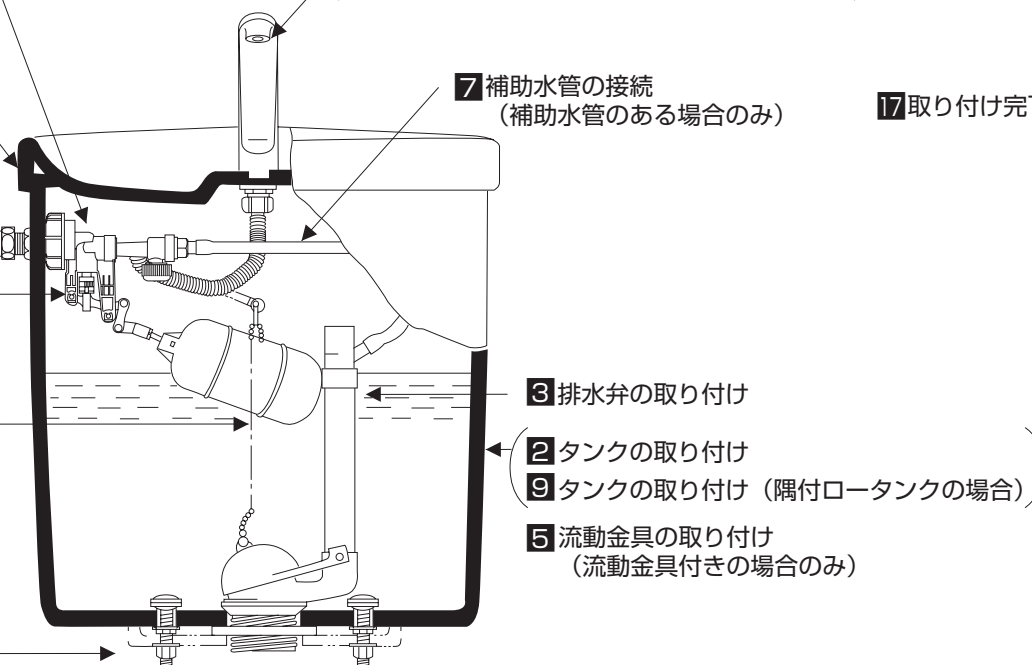
8 タンクと便器の固定

3 排水弁の取り付け

2 タンクの取り付け

9 タンクの取り付け（隅付ロータンクの場合）

5 流動金具の取り付け
（流動金具付きの場合のみ）



※品番によっては、図と現品の形状が一部異なることがあります。

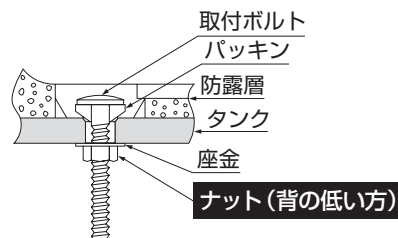
1 給水管内の掃除

取り付ける前に **必ず給水管内のごみ、砂などを完全に洗い流す。**

重要

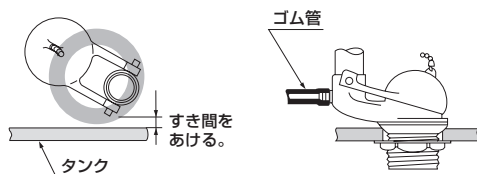
2 タンクの取り付け

背の低い方のナットを使用して締め付けてください。



3 排水弁の取り付け

フロートバルブの着脱ができるようすき間を確保してください。ボールタップと排水弁の取合いは完成図 ④ を参照してください。



(流動式の場合)
取り付け前にゴム管を差し込んでください。

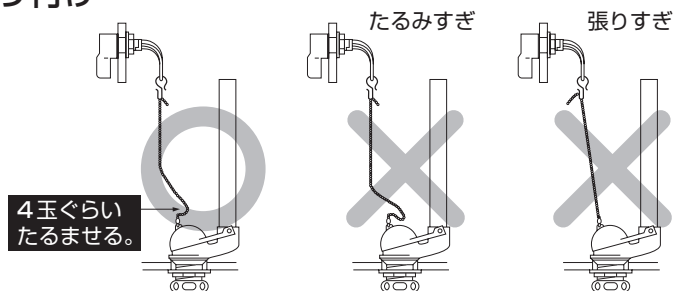


必ず実行

左給水と右給水の場合では取付方向が違います。オーバーフロー管が、ボールタップと反対側になるよう取り付けてください。

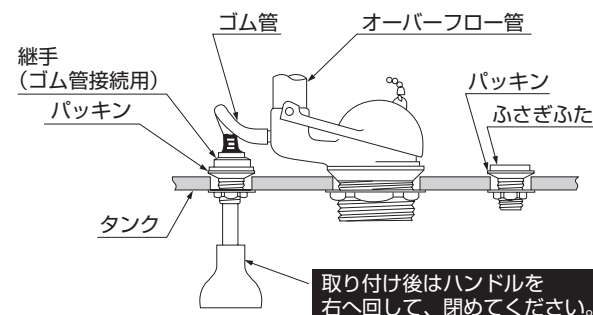
タンク防露層下面部は切り取らないでください。

4 鎖の取り付け



5 流動金具の取り付け (流動金具付きの場合のみ)

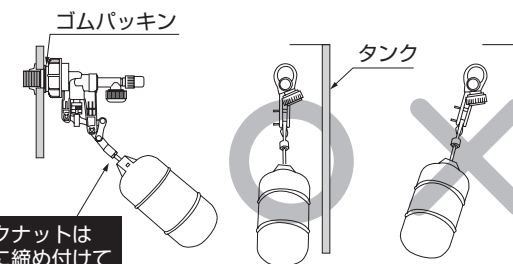
継手 (ゴム管接続用) をオーバーフロー管側のタンク底面取付穴に取り付け、ゴム管を差し込んでください。
ゴム管は絶対に切らないで取り付け、つぶれたり、折れたりしないようご注意ください。



取り付け後はハンドルを右へ回して、閉めてください。

6 ボールタップの取り付け

浮玉が真下に降りるように正しく取り付けてください。



ロックナットは確実に締め付けてください。

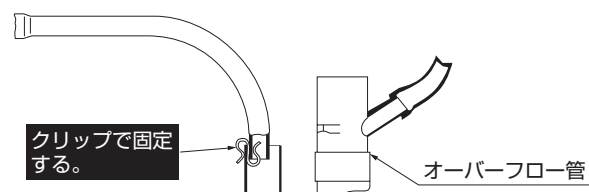


必ず実行

ボールタップを斜めに取り付けるとボールタップの浮玉と防露層が干渉し止水および吐水不良の原因となります。

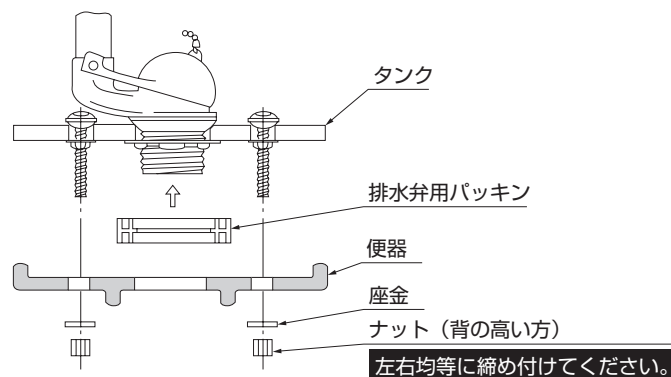
7 補助水管の接続 (補助水管のある場合のみ)

補助水管は、確実に差し込んでください。ゴム管は絶対に切らないで取り付け、つぶれたり、折れたりしないようご注意ください。



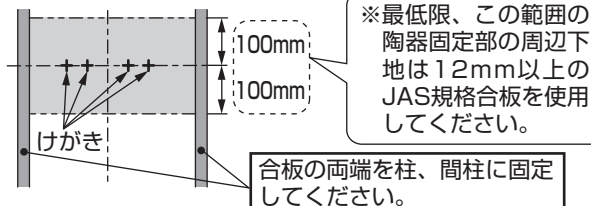
※品番によっては、図と現品の形状が一部異なることがあります。

8 タンクと便器の固定



9 タンクの取り付け

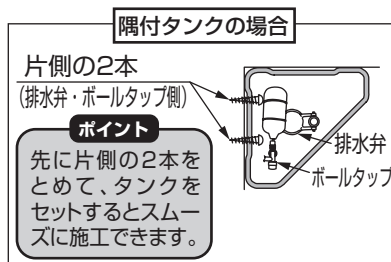
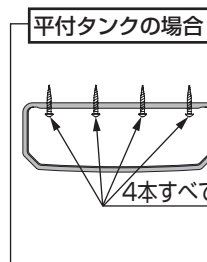
- ①タンク穴にあわせて木ねじの位置をけがいてください。



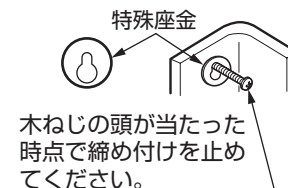
※上記は最低工法です。推奨は壁一面合板です。

- ②木ねじをねじ込み、25～30mm残してください。

※樹脂プラグを使用する場合でも25～30mm残してください。



- ③タンクを引っ掛けて特殊座金をセットし、木ねじをねじ込み、木ねじの頭が当たった時点で締め付けを止めてください。



注意

木ねじを強く締め付け過ぎるとタンクが割れることがあります。

隅付タンクの場合

※建物のひずみによるタンクの破損防止のため片面の2本を1mm程度すかせてください。

1mm程度のすき間

！ 注意



必ず実行

- 取り付け強度を保つため、下地に12mm以上のJAS規格合板相当を使用する
- 合板は両端を柱、間柱などの建築の躯体にしっかり固定する
陶器が落下し、けがをしたり、家財を破損させたり、水漏れの原因になります。

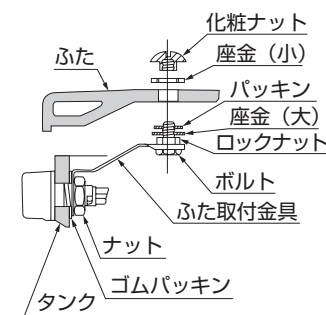
10 タンクふたの取り付け（ふた固定タイプの場合のみ）

- ①ふた取付金具をゴムパッキンとナットの間にに入れて図の向きになるように固定してください。

- ②ふた取付金具にボルトをロックナットで固定してください。この時ふたの穴にボルトが入るように位置合わせをしてください。

- ③座金、パッキンをロックナットの上に乗せてからタンクのふたをボルトに通し化粧ナットで締め付けてください。

※水位等の調節後に行ってください。



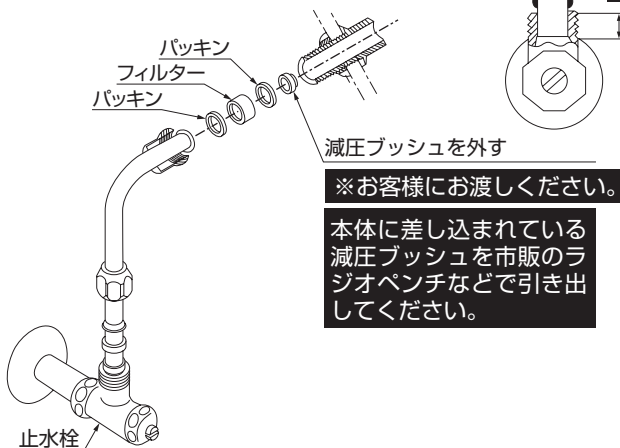
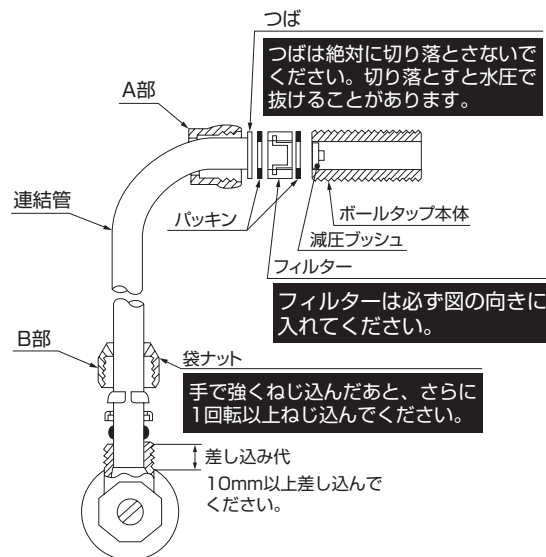
※品番によっては、図と現品の形状が一部異なることがあります。

11 ボールタップと止水栓の接続（一般・流動方式の場合）

- ①A部を先に固定したあと、B部を固定してください。
- ②テーパリング・パッキンガイド・パッキンは、確実に止水栓に当たるまで押し下げてから袋ナットをねじ込むようにしてください。

減圧ブッシュの取り扱い

水圧が低く（0.1MPa以下）、タンク貯水に時間がかかり過ぎる場合は減圧ブッシュを外してセットしてください。

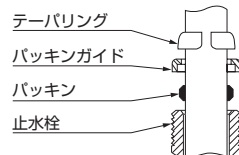


注意

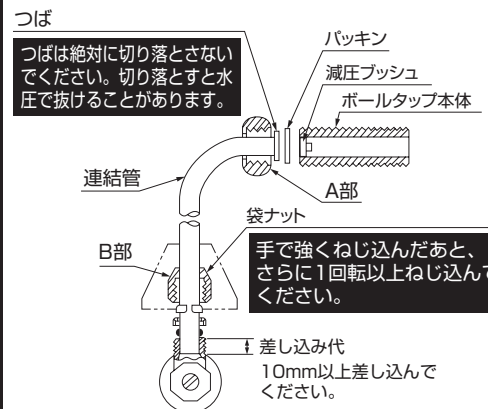


必ず実行

テーパリング・パッキンガイド・パッキンの順番・向きを間違えないでください。



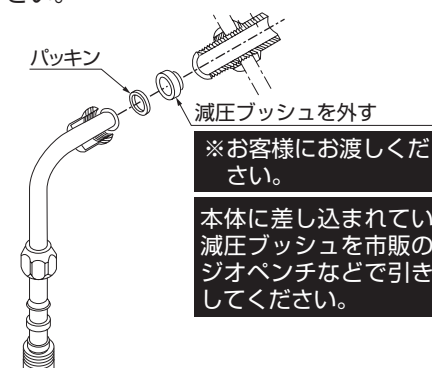
12 ボールタップと止水栓の接続（水抜き方式の場合）



A部を固定したあと、B部を固定してください。

減圧ブッシュの取り扱い

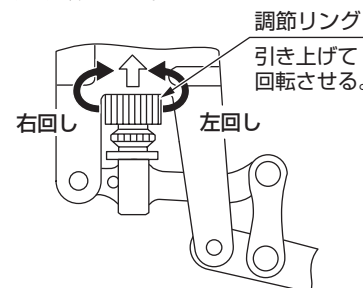
水圧が低く（0.1MPa以下）、タンク貯水に時間がかかり過ぎる場合は減圧ブッシュを外してセットしてください。



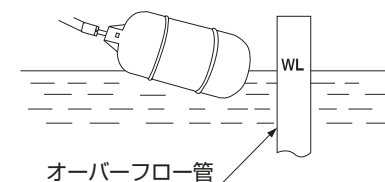
13 止水位の調節

タンクの止水位がオーバーフロー管のWL（標準水位）に合うように、次の要領で調節してください。

- ①調節リングを引き上げて回すと止水位を上下させることができます。その時、浮玉を軽く手で押さえておくとスムーズに回ります。
90°回すと約8mm水位が変わります。
・上から見て右回し…止水位が上がります。
・上から見て左回し…止水位下がります。
- ②調節が終わったら調節リングを引き下げて確実にロックしてください。



※洗浄不良防止のため、止水位は確実にあわせてください。

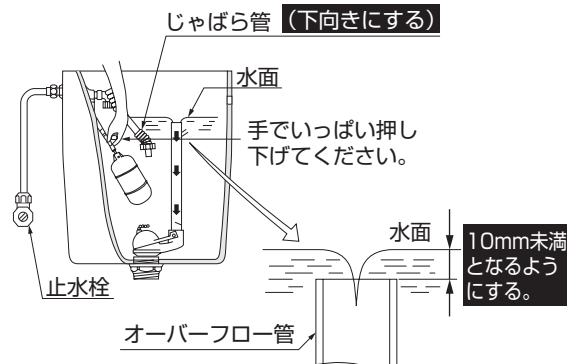


5-5 施工手順

※品番によっては、図と現品の形状が一部異なることがあります。

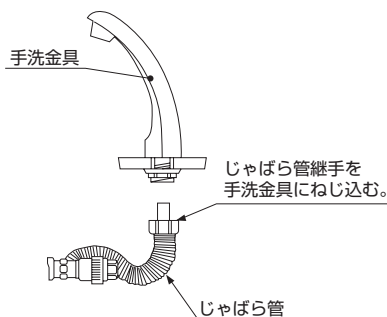
14 止水栓の調節

浮玉を押し下げて、止水栓を徐々に開いてください。
この状態で水面がオーバーフロー管より10mm以上上昇しない程度に止水栓の開きを調節してください。この調節をしておけば、万一ボールタップが故障しても、タンクの水が外にあふれることはありませんし、給水音も低くなります。



止水栓のない場合は、他の水栓の吐水量に支障のない程度に元バルブを絞ってください。

15 手洗金具の接続（手洗い付きの場合）



16 手洗金具の吐水量調節（流動・水抜きの場合）

調節金具をドライバーなどで回し、手洗金具からの吐水量が適当な水量になるように調節してください。



17 取り付け完了後の確認

2～3度操作して、ボールタップの浮玉が干渉しないことや水漏れなどの異常がないことを確認してください。

なお、冬期間の凍結予防方法についてはお客様にご説明ください。

※商品によっては、説明書の絵と異なる場合がありますのであらかじめご了承ください。

※同梱の取扱説明書は、必ずお客様にお渡しください。

※BL品（BLマーク証紙貼り付け品）において、当社が定める施工説明書などに基づく据付工事の瑕疵には（一財）ベターリビングのBL保険が利用できます。

保険の詳細・お問い合わせは、下記ホームページをご覧ください。

（一財）ベターリビング ホームページ…<http://www.cbl.or.jp/>
電話番号…03-5211-0559